

カレーライスの日？

何の気なしにテレビを見ていますと、「1月22日は、カレーライスの日」というCMが流れてきました。「カレーライスの日」なんていうのは聞いたことがないので、早速調べてみました。何故この日が「カレーライスの日」なのかというと、1982年（昭和57年）に開かれた全国学校栄養士協議会で1月22日の給食は全国一斉にカレーにすることが決められたことによるのだそうです。全国の子ども達が、学校で一斉にカレーを食べている図は、何とも異様な感じがしますが、実際、現場ではかなり異論があり、「カレーライスの日」というのはその年だけのことだったようです。

そのCMを見ながら、自分の給食体験を思い出しました。当時の給食は、初めは脱脂粉乳、しばらくして豆の入ったパンが付くようになりましたが、いずれにせよ美味しかったという記憶はありません。

それに比べると、今の子ども達は羨ましいですね。私は教育長時代、小学校や中学校を訪問した際、子ども達と給食を一緒にいただく機会がありましたが、いずれの給食も、味といい彩りといい、非常に工夫されていて質が高いと感じています。

我が国における学校給食は戦後にスタートしたものかと思っていましたが、調べてみますと、明治22年に初めて実施されていることを知り、不明を恥じると共に、大変驚いています。

戦争により中断されていた学校給食ですが、戦後、食糧難の中で児童の栄養状態が非常に悪化し、学校給食実施の必要性が叫ばれていました。こうした中、アメリカの民間援助団体ララから給食用物資寄贈の申し出があり、これを受けた政府では、昭和21年12月「学校給食実施の普及奨励について」という文部、厚生、農林3省次官通達を発出し、これによって、昭和22年1月から学校給食が再開されることになりました。

この政府の方針を受け、昭和21年12月24日、東京、神奈川、千葉の1都2県では試験的に学校給食が実施され、児童約25万人に対して給食が提供され、以来今日に至っています。

北海道でも、逐次学校給食が実施されてきており、今では、完全給食を実施

している学校は小学校で97.4%（児童数の99%）、中学校で96.0%（生徒数の98.9%）となっています。この他、補完給食やミルク給食を加えますと、児童生徒に対する実施率は100%となっています。

学校給食法では、学校給食の目的として、「日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。」、「学校生活を豊かにし、明るい社交性及び共同の精神を養うこと。」、「食糧の生産、配分及び消費について、正しい理解に導くこと。」などがうたわれています。

学校給食を巡っては、食物アレルギーを持つ子が増えてきていることや給食費の未納問題など様々な課題がありますが、学校給食は、単に昼食を取るということに止まらず、食育の中心的な役割を担うものとして、ますますその重要性は増しているといえるでしょう。

また、今日、朝食を取らずに登校する子や保護者の経済事情から十分な食事を与えられていない子が存在しており、学校給食が、子ども達にバランスの取れた食事を提供するための最後の砦という側面があることも、残念ながら否定できません。

「食」は、人間が生活していく上で最も重要なものですが、飽食の時代に生きていると、そのことへの意識が希薄になっていやしないか気に掛かります。

1月24日から同月30日までの1週間は「学校給食週間」です。各学校や地域では、学校給食の意義や役割などについて理解を深めるための様々な取り組みが行われています。子ども達だけではなく、全ての日本人が、改めてこの機会に、「食」について考えてみては如何でしょうか。（塾頭 吉田 洋一）